

専攻医 の主張

来世も泌尿器科

東広島医療センター 泌尿器科 桐島 史明

東広島医療センター泌尿器科の桐島史明と申します。中国労災病院で研修医2年間、レジデント1年間を行わせていただき、1年間広島大学病院を経て、令和5年4月から現病院へ赴任しております。専攻医としては来年度で5年目となります。

決して自分は真面目に授業を聞くタイプでなく、医学部に入ってから将来のことは全く考えていませんでした。大学3年生の時に、部活で前十字靭帯を損傷し手術を受けることになりました。リハビリ後は元通りに脚が動くようになり、そこで手術の魅力を感じ、医療にようやく興味を持つきっかけとなりました。

そんな漠然とした医師像しかなかった自分が、泌尿器科を最終的に選んだ理由の一つとして、内科・外科両方の特性を持った科であることが挙げられます。癌はもちろんのこと、排尿障害から性機能障害、尿路感染など領域はさまざまにわたり、内科的治療をまずは行い、改善が乏しければ外科的治療の介入を行うこともできます。そして患者を診断から治療・手術まで自分でマネジメントを行えるところも特徴です。排尿障害の患者から前立腺癌を見つけ出し、手術を行うこともあります。自身で診断し手術にて癌を治し、患者に感謝されたときはこの科に進んでよかったと心から思います。

また、一般的に浸透されていないことありますが、泌尿器科は外科系メインの診療科です。手術はロボット手術、腹腔鏡手術、経尿道的な内視鏡手術、陰嚢関連の小手術とさまざまで、

どの手技も面白く、外科医として順当にステップアップをしていくことができます。QOLや勤務スタイルも魅力的です。一概には言えませんが、泌尿器科は比較的朝早く来て業務をこなし、5時ダッシュを狙っているところが多いような気がします。時間外呼び出しも比較的少ないです。nicheな領域でもあるため頼りにされることも多く、困難症例の尿道バルンを留置した際は周りから喝采が起こることもあります。

あまり自分自身のことで語れることがなかったので泌尿器科の魅力について書かせていただきました。間違いなく言えることは、来世も医者となったら泌尿器科を選びます。自身としては来年度には専門医試験が控えており、一人前となることが求められます。もう一度身を引き締めて、知識・手技の研鑽を忘れることなく、目の前にいる患者さん一人一人に真摯に対応していこうと思っております。

最後に、これを読んでいる選ぶ科を迷っている方がいれば、お伝えしたい言葉があります。「今、泌尿器科を選ぶなんて先見の明がある」5年前に泌尿器科の先生から言われた言葉で、僕が決めた最大の理由となりました。最近は泌尿器科人気がばれてきていますが、まだ今ならギリギリ間に合うと思います。泌尿器科を選んでおけばよかった…など他科の部長のご意見もいただいております。先見の明があるなら、なんとなく外科系を考えている方、後悔しないと思います。ぜひ泌尿器科へ！



過去の勤務医コーナーの記事が
広島県医師会HPで読むことができます。

勤務医コーナー

検索